

日時：平成30年6月21日（木）20：00～

場所：ふれあい歯科ごとう

出席者（敬称略）：五島、豊田、矢作、森尾、齊藤

薬局の待合で行っていただけるアンケートについて検討

厚労省の介護予防のための基本チェックリスト

鶴見大歯学部のマウス問診票などを参考

「口の渇きは気になりますか？」「口が渇きますか？」「口の中が渇きますか？」「口の中が渇いていると感じますか？」口のというと喉の渇きも含む。

朝だけすごく渇くひとがいるが、最近というと一日中渇いている人も少ないだろう。

ドライマウスの度合いはどうか。

口の渇きで何かできないことがあるか、いつのころからというのは分かりにくい、自覚しにくい。薬（処方）と紐づけると期間はあった方が良さそうだがそう言われれば…、ざっくりと（例として：口の渇きでしゃべりにくいことがある。パサパサしたものが食べにくい）

口の渇きYES-NOだけでなく何段階かに分けるか？度合いもあるか、答えたい人もいるだろう。とても気になる、気になる、気にならないくらいの3段階で

わからないと回答するところも含め、誘導的にならないように。気になるか、気にならないか。

薬局側でのデータ：年齢、性別、服薬歴（アンケート時点での服用薬）

独歩で薬局にくる高齢者という条件、地域の高齢者を対象にしているため（基礎疾患は考えずに）全体で200例くらいサンプルは欲しいが、協力してくれる薬局を増やすか？

薬局数によってもバラツキが少なくなる。とりあえず国籍を問わずとして、データをとる1薬局25～30、65歳以上（国籍を問わず地域高齢である）。

これをやることによって、食に対する意識を持っていただくこと、薬の副作用の影響があるのかはっきりとさせたい。社会に対してどう貢献できるか、頭書きに研究目的を。65歳以上の「食」と「服薬状況」を調べる。ちゃんと口の中まで見ていますか？薬ばかりみていないで…という原点に戻る。

アプリなんかで「こんな状況ですよ」という喚起するものが薬局から発信できると良い。利益相反にも注意しながら、薬剤師のアドバイスに対しての啓発にもつなげたい。処方変更やアドバイスにより患者さんの利益につながることを考える。

地域薬局を巻き込むとしたら、研究計画を作成、倫理委員会を通さないとだけど、まあ、できることをやっつけていこうか。

次回、この会「齊坊主ウイング（仮）」7月17日（火）20：00～